

平成21年6月30日現在

研究種目：基盤研究（A）
 研究期間：2007～2008
 課題番号：19590528
 研究課題名（和文）開業動機の解明による勤務医の退職防止マネジメントの研究
 研究課題名（英文）Motive for becoming medical practitioner and Management of retirement prevention
 研究代表者
 米本 倉基（KURAMOTO YONEMOTO）
 岡崎女子短期大学 経営実務科・教授
 研究者番号：10390048

研究成果の概要（和文）：本研究は、病院勤務医の開業による退職要因を文献調査に基づき、因果構造モデルとして完成させ、その因果モデルを開業を希望する188名の勤務医から得た開業動機アンケート結果によって実証的に検証した。その結果、開業退職防止マネジメントは、開業の動機を軽減する「院内の軽減裁量権の拡大などエンパワメント」や、「開業医との所得格差の是正（給与水準や手当での見直し）」、「人事評価制度の導入などの金銭的インセンティブ」、「介護や育児休暇の制度充実や時短など多様な勤務形態の整備」が開業防止マネジメントに効果的であることが示唆された。

研究成果の概要（英文）：The doctor in a lot of hospitals changed work into the medical practitioner. This phenomenon causes doctor shortage. To become a medical practitioner, this research investigates the motive. This research was a questionnaire survey to the doctor who had worked for the hospital. Therefore, it is important in management in the following hospitals. "Enhance of the discretionary power limit", "Rise of the wage standard", and "Introduction of the number of man evaluation systems" "Monetary incentive" and "Improvement of the care leave system." and "Diversification of working form".

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	600,000	180,000	780,000
2008年度	100,000	30,000	130,000
年度			
年度			
年度			
総計	700,000	210,000	910,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：境界医学・医療社会学

キーワード：病院管理学、医師不足、医師開業、医師のキャリア

1. 研究開始当初の背景

新臨床研修医制度等の影響で勤務医師不足が大きな社会問題となっていた。特に、地方において深刻さが増す一方で、病院によっては、中核となる勤務医が比較して労働負担

が軽いといわれる開業へ転出し、病院の医師不足に拍車をかけていると指摘され、統計的にも新規に診療所を開設する件数は毎年約4000件以上で、ここ数年堅調に推移しており、病院マネジメントにおいて、主力とな

る勤務医が開業医より魅力を感じる組織づくりが課題となっていた。このような問題に対して、我が国において、主に病院に勤務する医師が退職し、自ら事業主（開設者）として起業（新規開業）する場合の経済的、社会的、心理的な側面からの動機を明らかにし、病院側の開業による勤務医師の退職防止マネジメント策について知見を得ることが求められていた。

2. 研究の目的

本研究は、医師の開業に影響を与える要因特性を個人特性（個人的資質要因）と組織特性（医師を取巻く環境要因）に別け、起業プロセスモデルを検証することで、どのような個人特性を有する勤務医が、どのような組織特性の下で、何が不満で（衛生要因）、何を求めて（動機要因）開業するのかを明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

病院勤務医の開業による退職要因を文献調査に基づき、因果構造モデルとして完成させ、平成19年～20年度にかけて開業を希望する188名の勤務医から開業動機アンケートのデータを得ることで、その要因モデルを実証的に検証した。

4. 研究成果

その結果、開業動機は、「もっと自分の裁量で仕事がしたい」、「もっと働きに応じた収入を得たい」、「開業に適した資産や資金を持っている」、「親の面倒をみる必要がある」、「家族が開業を望んでいる」とする勤務医ほど開業動機が強い（開業志向である）傾向が確認された。対して、文献調査で主因とされた「長時間労働」と「ハイリスク」の労働環境からの逃避については、「労働時間を短くしたい」、「医療リスクの緊張から開放されたい」、「単独で広範囲な医療を迫られたくない」と思う勤務医が必ずしも開業動機が強い（開業志向である）傾向にはない結果から支持されなかった。このことから、開業退職防止マネジメントは、開業の動機を軽減する「院内の軽減裁量権の拡大などエンパワメント」や、「開業医との所得格差の是正（給与水準や手当の見直し）」、「人事評価制度の導入などの金銭的インセンティブ」、「介護や育児休暇の制度充実や時短など多様な勤務形態の整備」が効果的であることが示唆された。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

①米本倉基、医師不足の要因に関する因果構

造モデル仮説への試み、岡崎女子短期大学研究紀要41号、P93-P98、2008、査読有

②米本倉基、医療ベンチャー分析モデルの構築とケース実証の試み、岡崎女子短期大学研究紀要42号、P43-P53、2009、査読有〔学会発表〕（計1件）

①米本倉基、医療秘書コンピテンシー教育の考察、日本ビジネス実務学会中部ブロック研究会、2009,1,11、名古屋大学〔図書〕（計1件）

①永池京子・米本倉基、人的資源管理を実践する看護管理者の教科書、2009、P15-P119〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計◇件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

()

研究者番号：

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

以上